



水害は逃げるが勝ち!被災経験から学んだ子育て世代の防災



岡山県倉敷市 川辺復興プロジェクトあるく
代表 榎原 聡美

1 はじめに

平成30年西日本豪雨災害時、岡山県倉敷市真備町川辺地区では、末政川の決壊により約1,700世帯のうちほぼすべての住家が全半壊の浸水被害に遭いました。地区内には高台や公的な避難先がなかった上に、他地区にある避難所には定員をはるかに超えた多くの人々が押し寄せました。結果、自宅での垂直避難をされた方も多く、徐々に浸水してくる怖さを経験しました。

被災後、住民は顔合わせ、励まし合う機会が少なく、生活再建への意欲が失われていくように感じました。そこで、被災した川辺住民が中心となって任意団体「川辺復興プロジェクトあるく」を2018年10月に立ち上げました。多くの支援者の協力を得て、被災後の居場所づくりや受援拠点としても大切な役割を担いました。そして、住民が安心して住み続けられるまちづくりを目指して、防災に対する取り組みにも力を入れてきたので一部紹介します。

2 新しいコミュニティの誕生

地区全体が浸水被害を受け、ほとんどの住民は地区外での避難生活が始まりました。当時、被害状況などの情報も伝わってこず、不安な時間を過ごしていた中で、スマートフォンアプリLINEを活用した情報共有を始めました。「川辺地区みんなの会」と名付け、小学校PTAを中心に始めたこのグループLINEは瞬間に参加者が増えていきました。地域の被災状況・復興支援

情報・片付けの仕方などの情報のやり取りの中で助け合いの新しいコミュニティの場となっていきました。なかでも、子どもの学校生活の再建や被災後の子どもたちのケアについてのやり取りも多くありました。今現在も、平時には近隣のイベント情報や学校・地域の情報共有をしています。緊急時には気象情報や避難所開設、道路状況などの情報共有として活用し、危険を知らせ、避難を促す役割も担っています。また、グループラインには約600名(2021年9月現在)の方が参加しており、なかには60~80代の住民や支援者などもおられます。世代を超えたつながりを深めつつ、温かい地域づくりの一端を担っています。



ラインでのやり取り

3 子育て世代の後悔と教訓

被災後、母親たちとの会話の中で、平成30年西日本豪雨災害時に子どもたちが「避難したい!怖い!」と声を上げたことにより、避難行動につながったケースをよく耳にしました。大人は正常性バイアスがわか

り、「今まで、大したことがなかった。」「避難しても空振りになるのでは。」とってしまう傾向が強いのですが、子どもたちはそうではありません。怖いと思ったら素直に表現し、大人にSOSを発信してくれます。この時に、周りの大人がどう対応するかで、家族や大切な人の命を守ることにつながるのではないかと考えました。

そこで、真備町で被災した保護者にオンラインアンケートを行いました。約100名の回答があり、西日本豪雨災害の教訓から、「とにかく、子どもを守って！子どもに怖い思いをさせないで！私たちと同じ後悔をしてほしくない。」との想いがひしひしと伝わってきました。

4 子どもたちをどう守る？ 真備町・川辺からの発信 ～想いを形に～

オンラインアンケートに寄せられた声と川辺復興プロジェクトあるくのスタッフの経験と学びなどを盛り込んだのが、「防災おやこ手帳」（2020年10月発行）です。忙しい子育て世代でも気軽に手に取ってもらえるように、内容はなるべく簡素に要点をまとめました。

ページを開くと子育て世帯の経験談から始まり、川辺地区発祥の分散避難の考え方「マイ避難先」のポイント（避難先は3か所以上考えて！など）を説明。そして、避難スイッチに関するページでは、子どもの「怖い！」が避難スイッチになることや避難時の声掛けの重要性など、被災経験に基づいた視点の避難スイッチを紹介しています。「もっていくもの」については、環境の変化などから食欲が落ちた子どもでも、好きなお菓子やジュースなら食べられたことから、子どもがリラックスできるようなものを避難グッズに入れておくように記載しました。

また、親子で一緒に準備することの大切さも伝えていきます。

5 おわりに

この「防災おやこ手帳」は、水害の危険性がある地域で子どもを産み育てるパパ・ママに広く配布し、希望者には郵送もしています。そして、家庭のみならず、学校の防災教育や地域の防災研修などでも活用していただいています（2021年9月現在で約12,000冊を配布）。また、災害の教訓を多くの人に伝えるために「防災おやこ手帳」を教材にした講演活動も行っています。

監修を務めていただいた香川大学の磯打千雅子准教授から、「子育て世代は防災のことまで手が回らない場合が多い。実際に被災を経験された方の説得力のある、かつ読みやすい内容が簡単にまとめられているので、ぜひお子さんと一緒に手に取って考えてもらいたい。」と、コメントをいただきました。

平成30年西日本豪雨災害の教訓と被災した保護者の想いを多くの人に届け、大切な人の命を守ることができるよう、そして、子どもたちに怖い思いをさせないように願いを込めて活動を続けています。

防災おやこ手帳

